

宮城県伊豆沼・内沼集水域における ゼニタナゴ *Acheilognathus typus* の再確認

川岸 基能¹・藤本 泰文²・進東 健太郎^{2*}

¹ 北里大学理学部 生物科学科 分子発生学研究室 〒228-8555 神奈川県相模原市北里 1-15-1

² 財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畠岡敷味
17-2 TEL 0228-33-2216 FAX 0228-33-2217 e-mail zenitanago@theia.ocn.ne.jp

* 責任著者

キーワード：絶滅危惧種 タナゴ亜科 保全

2006年12月15日受付 2006年12月28日受理

要旨 2006年秋にゼニタナゴを伊豆沼・内沼集水域内で採集した。ゼニタナゴは、環境省のレッドデータリストにおいて、絶滅危惧種 IB 類に指定されている小型のコイ科魚類である。伊豆沼・内沼集水域内では、ゼニタナゴの生息が、2000年以降に確認されていなかった。採集した水域では、魚食性の魚類であるオオクチバスやハスも採集された。この水域でのゼニタナゴの生息状況は極めて厳しいと考えられる。伊豆沼・内沼集水域内で保護を進めるため、採集した水域を中心に、伊豆沼・内沼集水域での本種の詳しい生息状況を早急に調査する必要がある。

ゼニタナゴ *Acheilognathus typus* は、コイ科タナゴ亜科に属する体長 70-90mm になる日本固有の淡水魚である。本種は平野部の浅い池沼や流れのない場所を好み、かつては神奈川県以北の本州に分布していた（君塚 2002）。本種は、土地開発による生息地の消失、水質汚染による生息環境の劣化や産卵母貝であるドブガイやマツカサガイなどの減少により激減した。本種は、環境庁のレッドデータリストにおいて絶滅危惧種 IB 類に指定された（環境庁 1999）。現在、本種の生息地は、東北地方の数箇所に限られており保護が必要である。

ゼニタナゴは、宮城県の伊豆沼・内沼およびその集水域にかつて多く個体が生息していた。1996年に伊豆沼・内沼で魚食性の外来種であるオオクチバス *Micropterus salmoides* の生息が確認された。それ以降、オオクチバスの増加とともにゼニタナゴの生息数が急減した。伊豆沼・内沼において、2000年の春以降、ゼニタナゴは確認されておらず（高橋 2002），その生息が危ぶまれていた。私たちは、伊豆沼・内沼の集水域にて本種の生息を再確認したのでそれを報告する。

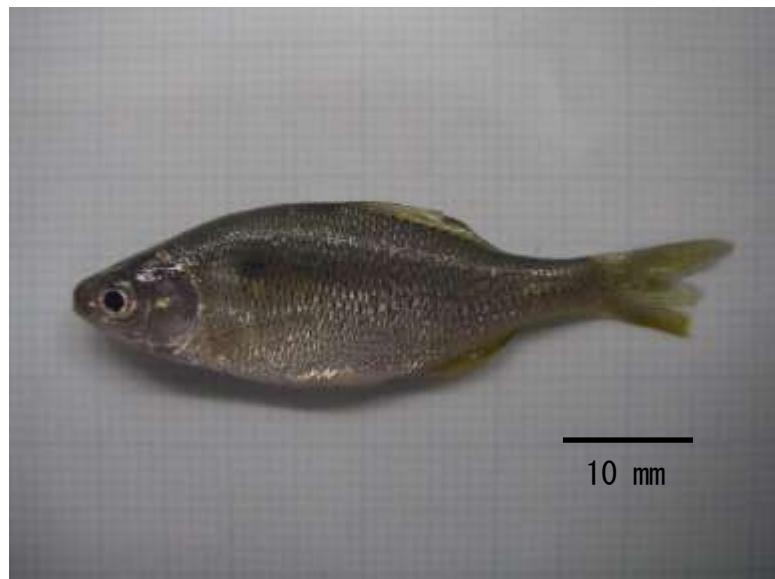


図 1. 採集したゼニタナゴ *Acheilognathus typus*. 全長 49.07mm, 体長 38.56mm, 体重 1.2 g, 採集日 2006 年 9 月 22 日.

表 1. 伊豆沼・内沼集水域内の調査地点で採集した魚種およびその個体数.

| 魚種 | 個体数 |
|-------------------------------------------|-----|
| コイ <i>Cyprinus carpio</i> | 1 |
| カネヒラ <i>Acheilognathus rhombeus</i> | 7 |
| ゼニタナゴ <i>Acheilognathus typus</i> | 1 |
| ハス <i>Opsariichthys uncirostris</i> | 1 |
| モツゴ <i>Pseudorasbora parva</i> | 6 |
| ビワヒガイ <i>Sarcocheilichthys variegatus</i> | 3 |
| タモロコ <i>Gnathopogon elongatus</i> | 8 |
| ニゴイ <i>Hemibarbus barbus</i> | 12 |
| オオクチバス <i>Micropterus salmoides</i> | 26 |
| トウヨシノボリ <i>Rhinogobius</i> sp.OR | 57 |
| ヌマチチブ <i>Tridentiger brevispinis</i> | 24 |
| 合計 | 146 |

2006 年 9 月に伊豆沼・内沼集水域内の、ある水域を調査地とした。3 人でタモ網（目合 2mm, 幅 370mm, 高さ 300mm, 奥行き 400mm）と三角網（目合 3mm, 幅 800mm, 高さ 700mm, 奥行き 500mm）を使用し 90 分間、調査地内の魚類を採集した。ゼニタナゴ 1 個体を含む全 146 個体の魚類

を採集した（表 1）。採集したゼニタナゴは、全長 49.07mm、体長 38.56mm、体重 1.2 g のメスであった（図 1）。ゼニタナゴは、満 1 年で全長 60-70mm に達する（中村 1969）。このことから採集したゼニタナゴは、当歳魚であると考えられる。

本調査地では、ゼニタナゴの他に魚食性の外来種であるオオクチバス、ハス *Opsariichthys uncirostris* も採集された（表 1）。採集されたゼニタナゴは、1 個体であったが、オオクチバスは、26 個体採集された。この調査地でのゼニタナゴの生息状況は、極めて厳しいと考えられる。本種の保護を進めるため、この調査地を中心に、伊豆沼・内沼集水域内における本種の詳しい生息状況を早期に調査する必要がある。

謝辞

宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の方々には、調査への暖かいご支援と多くの便宜をはかつて頂いた。東北区水産研究所の斎藤憲治博士には、調査へのご指導を頂いた。北里大学理学部生物科学科の花岡和則教授には、多くの便宜をはかつて頂き、本研究を行なう機会を頂いた。これらの方々に、心から感謝の意を表したい。

引用文献

- 環境庁. 1999. レッドデータリスト. 自然環境研究センター, 東京.
- 君島芳輝. 2002. ゼニタナゴ. 川那部 浩哉・水野信彦・細谷和海 (編). 山渓カラーナイフ 日本の淡水魚 改訂版. pp. 367. 山と渓谷社, 東京.
- 中村守純. 1969. 日本のコイ科魚類 (日本産コイ科魚類の生活史に関する研究). 資源科学シリーズ 4, 資源科学研究所, 東京.
- 高橋清孝. 2002. オオクチバスによる魚類群集への影響. 川と湖沼の侵略者 ブラックバスーその生物学と生態系への影響, 日本魚類学会自然保護委員会 (編). pp. 47-59. 恒星社厚生閣, 東京.

Rediscovery of *Acheilognathus typus* in Lake Izunuma-Uchinuma basin

Motoyoshi Kawagishi¹, Yasufumi Fujimoto² & Kentaro Sindo^{2*}.

¹ Laboratory of Molecular Embryology, Department of Biology, School of Sciences, Kitasato University, Kitasato, 1-15-1 Kitasato, Sagamihara, Kanagawa 228-8555, Japan

² Miyagi Prefectural Izunuma-Uchinuma Environmental Foundation, 17-2 Sikimi, Kamihataoka, Wakayanagi, Kurihara, Miyagi 989-5504, Japan TEL 0228-33-2216 FAX 0228-33-2217

e-mail zenitanago@theia.ocn.ne.jp

* Corresponding author

Abstract We rediscovered *Acheilognathus typus* in Lake Izunuma-Uchinuma basin in autumn 2006. This species is designated an Endangered species in the Red list of Japan. *A. typus* had not been captured in Lake Izunuma-Uchinuma basin since 2000. To protect *A. typus* in this area, the following research of the distribution of the population needs to be conducted.

Keywords: bitterling, conservation, endangered species

Received: December 15, 2006 / Accepted: December 28, 2006